

第13回 国際会議等の北海道開催の推進に係る各省庁連絡会議 議事概要

1. 日 時：令和元年11月5日（火） 15：45～16：50
2. 場 所：中央合同庁舎3号館4階 特別会議室
3. 出 席：〔省庁〕 内閣府、公正取引委員会、警察庁、消費者庁、公害等調整委員会、
法務省、外務省、財務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省
経済産業省、環境省、防衛省、人事院、会計検査院
〔北海道〕 黒田総合政策部長、長谷川総合政策部国際会合担当局長
〔札幌市〕 石川経済観光局観光・MICE推進部長
〔国土交通省北海道局〕 水島局長、谷村参事官、遠藤企画調整官、
神山開発専門官
〔国土交通省観光庁〕 平泉参事官（MICE担当）
〔(独) 国際観光振興機構〕 MICEプロモーション部 誘致推進グループ
佐藤マネージャー、佐野調査役

4. 議事次第

- (1) 開会
- (2) 挨拶
- (3) 議題
 - 1) 「国際会議等の北海道開催の推進に係る基本方針」の一部改正について
 - 2) 向こう5年間の国際会議等の開催計画等について
 - 3) MICEの誘致・開催の取組について（観光庁）
 - 4) 国際会議等各種会議の北海道開催推進に係る取組について
（(独) 国際観光振興機構）
 - 5) 北海道における国際会議等誘致の取組と現況について（北海道）
 - 6) 札幌市における国際会議等誘致の取組と現況について（札幌市）
 - 7) その他
- (4) 閉会

5. 議事及び主な発言内容等

- 1) 「国際会議等の北海道開催の推進に係る基本方針」の一部改正について
＜資料2-1、2-2について事務局より説明。＞
 - ・令和元年6月の「令和元年度革新的事業活動に関する実行計画」の閣議決定、同月の「国土審議会北海道開発分科会第4回計画推進部会」での審議等を踏まえ、改正案を提案する。
＜改正について異議無く了承。令和元年11月5日付で改正。＞
- 2) 向こう5年間の国際会議等の開催計画等について
＜資料3-1、3-2について事務局より説明。＞
 - ・平成30年度の国の機関等による国際会議等の北海道開催実績は4件であった。
 - ・令和元年度以降、向こう5年間の開催計画について、令和元年度は9件、令和2年度は6件

予定されている。

- ・日本国内における開催地未定の会議について、各省庁におかれては、今後、北海道開催を積極的に検討していただきたい。

3) MICEの誘致・開催の取組について（観光庁）

＜資料4について観光庁より説明。＞

- ・先月、倶知安町で行われたG20観光大臣会合が成功裏に開催できたこと、北海道庁をはじめ地元の関係機関のご協力に対して、この場を借りて感謝申し上げたい。
- ・観光分野でG20を開催することは初めての試みであり、その点でも画期的なことであった。
- ・G20観光大臣会合では、実りのある閣僚宣言が発出され、参加された各国の幹部クラスの方々と緊密に今後の協力について意思確認ができ、非常に意義のある会議だったと考えている。
- ・我々が、北海道での開催を目指して誘致に力を入れている会議の一つに、アドベンチャートラベルワールドサミット2021がある。2021年に開催するべく、主催者であるアドベンチャー・トラベル・トレード・アソシエーションのシャノンCEOに対して、G20観光大臣会合の際に、赤羽大臣から直接依頼させていただいた。北海道での開催となった場合は、観光庁としても、実りある会議となるよう、関係機関と連携し、最大限の協力をさせていただきたい。

4) 国際会議等各種会議の北海道開催の推進に係る取組について（（独）国際観光振興機構）

＜資料5について（独）国際観光振興機構より説明。＞

- ・国際観光振興機構では、グループサイトなどを通して、海外の主催者目線で、MICE開催地としての北海道の詳細な情報や魅力を情報発信している。
- ・産業界や学術分野で国内外に対し発言力やネットワークを有する方々を「MICEアンバサダー」に認定し、誘致活動を支援している。現在、全国に69名のアンバサダーがおり、北海道でも昨年初めて1名任命したところ。
- ・アドベンチャートラベルワールドサミット2021の北海道誘致に向けて、国際観光振興機構では、2019年スウェーデン大会でのブース出展や、開催地決定権者との意見交換会などを行っている。
- ・国際観光振興機構では、国内主催者の会議誘致・開催宣伝を目的とした海外渡航費支援や、国際本部の日本視察費の支援など、小規模会議も対象とした様々な支援メニューを用意している。
- ・国際観光振興機構が誘致に関わった訪日インセンティブ旅行における北海道の特徴としては、東南アジアの比率が高く、月別では7、10、12月が多いことが特徴として挙げられる。北海道旅行者の季節較差の問題については、東南アジアのインセンティブ旅行を上手く誘引することで、平準化を図ることができるのではないか。

5) 北海道における国際会議等誘致の取組と現況について（北海道）

＜資料6について北海道より説明。＞

- ・北海道での国際会議開催件数は年間100件超で継続的に推移しており、政府系会議においては、東アジアやASEANの会議が多く開催されている。来年には、日ASEAN次官級交通政策会合の札幌市での開催が決定している。
- ・訪日外国人来道者数は平成30年度312万人と全国の約1割を占めている。北海道の認知度については、アジアでは6割である一方、欧米では2割を下回っており、依然として課題がある。
- ・新千歳、函館、旭川空港発着の国際定期航空路線は20路線、9か国17都市であり、2019年9月は187便／週が運航している。本年12月には、新千歳－シドニー線、フィンランド線が就航する予定であり、今後はアジアのみならず、世界をつなぐ空港として機能していくことが期待されている。さらに、新千歳空港の航空機の発着回数は、来年春に一時間あたり42回から50回に拡大し、新千歳空港の利便性が一層高まっていくとともに、一括民間委託により、北海道の国際ゲートウェイ機能は7空港に分散・拡大され、道内各地での国際会議開催の環境がますます整っていくと考えられる。
- ・エクスカッションに関して、来年4月には、民族共生象徴空間・ウポポイがオープンする。各国の方々にアイヌ文化の多彩な魅力に触れていただくことは、本道のみならず、日本の魅力の大きな発信になるものと考えられる。
- ・国際会議等の道内開催に向けた体制について、北海道では道内各都市におけるコンベンションビューロー等とともに「北海道MICE誘致推進協議会」を組織しており、各地域はもちろんで、各都市間のネットワークも最大限に活用して、国際会議の開催をサポートしている。また、民間や各種学会等への支援としては、「北海道コンベンション誘致促進助成金」を用意している。
- ・北海道では、国際会議の開催を契機の一つとして、北海道の多彩な魅力を国内外へ発信し、更なる発展につなげていければと考えていることから、各省庁の皆様には、道内での国際会議の開催に向け、これまで以上のご支援とご協力をお願いしたい。
- ・G20観光大臣会合については、昨年10月に、官民一体となったオール北海道の実行委員会を設立し、ウエルカムキャッチフレーズの募集や写真コンテストのほか、観光庁との共催による国際シンポジウム、大学生による観光をテーマとした「学生サミット」などを開催し、気運の醸成に努めてきた。
- ・会合前日に歓迎レセプションを開催し、道産食材による料理や、ワインや日本酒といった道産酒を味わっていただくとともに、ウエルカムギフトの贈呈を行った。
- ・地域PRとして、大臣会合において、知事が北海道観光についてプレゼンをしたほか、高校生が観光をテーマにした提言を発表した。また、北海道の食や観光、アイヌ文化などをPRするブースを会場に設置したほか、エクスカッション、食のPRイベントなどを実施し、北海道の魅力を海外に向けて発信した。
- ・開催支援として、警備体制、消防救急体制、医療体制などを整備したほか、保健衛生管理を行うとともに、各国代表をアテンドするリエゾンとして道職員の派遣を行った。多くの場面で地元の高中生や大学生が参加協力してくれたことは、これまでの国際会議にはない特徴と言えます、高校生や大学生にとっても貴重な経験になったと思われる。

- ・大臣会合を成功裏に収めて頂いた観光庁に改めて感謝するとともに、地元を取組を支えて頂いた関係の皆様へ感謝を申し上げたい。

6) 札幌市における国際会議等誘致の取組と現況について（札幌市）

＜資料7について札幌市より説明。＞

- ・札幌市においては、北海道大学等の大学研究機関に学術系の国際会議のキーパーソンとなる人物が集積していることから、国内でも多くの国際会議が開催されている。
- ・札幌市の観光客数については、繁忙期と閑散期の差が大きく、ピーク（8月）と底（11月）では半分以下に落ち込む。また、宿泊施設の稼働率については、春先と冬期に低下する傾向にある。
- ・市内の外国人宿泊者は冬期間に多い一方で、国内における大型の国際会議の開催時期は春、秋に集中している。国際会議等の誘致は札幌観光における閑散期の底上げに寄与することが期待されることから、開催時期についても意識しながら戦略的に誘致活動を行っている。
- ・2015年に「札幌MICE総合戦略」を策定し、MICE誘致の取組を推進しており、重点誘致ターゲットとして政府系国際会議やスポーツ関連大会等を掲げている。
- ・具体の誘致活動としては、MICE専門見本市等でのセールスやキーパーソンとのネットワーク構築などとともに、2015年にグローバルMICE都市に選定され、それ以降、国とも連携しながらMICE誘致力を強化している。
- ・開催支援として、MICEの補助制度を設けている。
- ・スポーツ関連の大会等として、各種国際大会や障害者の大会の誘致に積極的に取り組んできた。本年9月にはラグビーワールドカップを開催し、イングランドから6千人、オーストラリアから8千人の観光客を受け入れ、外国人観戦者向けに日本文化体験や特設インフォメーションブースを設置するなど、おもてなしに努めた。
- ・本年3月に、関係11市町村と「さっぽろ連携中枢都市圏」を形成し、外国人旅行者の札幌一極集中の解消も含めて、観光分野でも連携して取組を進めていく。今後は、アフターコンベンションやエキスカーション等における視察ルートの設定や海外見本市への出展などに共同で取り組んでいく予定である。
- ・現在、中島公園周辺地区に、新たなMICE施設の建設を計画している。新千歳空港から施設まで一度も外に出ないでアクセスすることが可能で、単体で5千人規模、周辺ホテルと合わせると1万人規模の国際会議を受入可能と考えており、2025年度の供用開始を予定している。国際会議誘致の際は、本施設の活用も検討に加えていただきたい。

以上

（速記のため、事後修正の可能性があります。）